

# 自分の目で確かめ、自分の考えを持ち、 納得した診療を実践できる泌尿器科医を目指して

山口大学大学院 医学系研究科 泌尿器科学分野 教授

## 松山 豪泰 先生

### 教室の歴史

山口大学に泌尿器科学教室が開設されたのは1963年のことです。初代仁平寛巳教授(1963~1967年)から2代目酒徳治三郎教授(1967~1991年)に引き継がれ、3代目内藤克輔教授(1991年~2008年)を経て2008年8月からは私が4代目教授として教室を主宰しています。現在、同門会の会員数は120名となっています。泌尿器科開設以降45年間にわたり、歴代教授らにより中国・四国地域における泌尿器診療の発展の萌芽となる研究が実践されてきました。そして現在も、臨床および基礎の両面からさらなる飛躍を目指して精力的に研究が進められています。

### 教室の構成

教室のスタッフは、私以下准教授1名、講師2名、助教3名となっています。腎不全、腎移植、腹腔鏡手術、CAPD、尿路性器悪性腫瘍、アンドロロジー、小児泌尿器外科などを中心に取り組んでいます。特に私自身は尿路性器悪性腫瘍のほか、女性泌尿器科について力を注いでいます。山口県内はもとより、福岡県や島根県など県外の病院も含め20を超える関連病院で教室出身者が活躍しています。

### エビデンスに基づく医療の提供と臨床に即した研究に重点

当教室では、患者QOL向上をめざし、最新のエビデンスに基づいた治療の提供を心がけています。また、臨床に即した研究を進め、その成果を臨床に還元して泌尿器診療のいっそうの発展につなげること、さらに世界に発信できるような質の高い研究を実践することをめざしています。

### 他科との連携も視野に入れ、 時代の変化に柔軟に対応する体制

最近では医療事故に対する社会的関心が高まり医療訴訟件数が増えています。治療に際しては患者さんにも医療の限界を理解してもらうことが必要だと思います。そのためには、医師と患者の信頼関係の構築が重要なポイントになります。治療の選択肢とこれまでに得られているエビデンス、限界、メリットとデメリットを事前に十分に説明するよう心がけています。

また、生活習慣の欧米化を背景に、前立腺癌や女性泌尿器疾患の増加など疾病構造が大きく変化しています。診療面ではこうした変化に柔軟に対応する体制を整備しています。さらに、整形外科、脳神経外科、神経内科の疾患は排尿障害をきたすことが多く、また大腸癌や婦人科癌をはじめとする骨盤内腫瘍は膀胱や尿管に浸潤しやすいことから、他科との連携においてわれわれ泌尿器科が外科系の専門分野として重要な役割を果たしています。

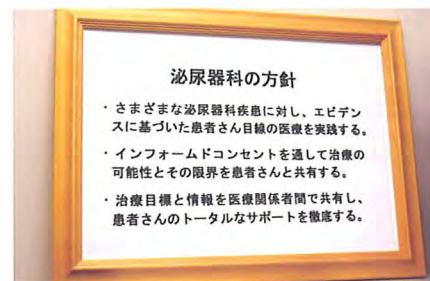
治療技術においては、膀胱癌に対する金球埋め込みによるIMRT(強度変調放射線治療)、血液不適合の腎移植、5-aminolevulinic acid(5-ALA)を用いた蛍光膀胱鏡による内視鏡治療など、中国・四国地域で先陣をきって最新の治療に取り組んでいます。また、膀胱癌における遺伝子解析を用いた副作用および効果予測の研究、中心体複製異常の臨床的意義に関する研究は実を結び、臨床応用へと発展しつつあります。

### 若い先生方のキャリアデザインを 医局全体でサポート

若い先生方には、自分の考えを持ち、納得した診療を実践していただきたいと思います。手術記録1つとっても、画一的な記載で

はなく、自分の目でどう見えたのか、実際の手順はどうだったのかを自分の言葉で記すことが大切であり、きめ細かな指導を行っています。

医局は多くの症例を経験し、新しい技術を習得できる場であるとともに、自分の可能性を発見できる場でもあります。私たちの医局に、少しでも多くの先生が集まってくれることを願っています。最近では若い先生方の価値観が多様化してきています。各々の先生の将来の希望を十分把握し、そのキャリアデザインを医局全体でサポートしていきたいと考えています。医局での毎日の修練は読書に例えると「精読」であり、若い間に医局を通して得られる経験は泌尿器の専門家として大切な基盤となり、そこにこそ医局の存在価値があると思います。



### Profile

松山豪泰(まつやま・ひでやす)



1957年生まれ。1981年山口大学医学部卒業。1987年同大学院医学研究科博士課程修了。1992年から2年間、スウェーデン王立カロリンスカ研究所に留学。1995年に山口大学医学部附属病院泌尿器科講師に着任。1996年総合病院山口赤十字病院泌尿器科部長、2001年山口大学医学部泌尿器科助教授を経て、2008年山口大学大学院医学系研究科 泌尿器科学分野 教授に就任、現在に至る。2003年平成15年度内視鏡医学研究振興財団研究助成受賞。2007年に第45回日本癌治療学会総会優秀発表受賞。日本泌尿器科学会、日本癌治療学会、日本癌学会、日本透析医学会、米国泌尿器科学会、米国癌学会などに所属。





## Interview

### 山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学教室における臨床、研究活動

山口大学大学院 医学系研究科 泌尿器科学分野 医局長  
内山 浩一 先生



山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学教室の歴史は、昭和38年10月、当大学の前身である山口県立医科大学泌尿器科学教室に遡ります。初代仁平寛巳教授(昭和38年～昭和42年)から2代目酒徳治三郎教授(昭和42年～平成3年)に引き継がれ、この間に山口大学医学部泌尿器科学講座として新しいスタートがされました。第3代内藤克輔教授(平成3年～平成20年)を経て平成20年8月より松山豪泰教授が主宰しております。現在の泌尿器科医局は、松山豪泰教授以下、准教授1名、講師2名、助教3名、医員5名、大学院生6名、医局秘書2名、実験助手1名の計21名が勤務しています。また山口県を中心に計23の関連施設に約30名の教室員を派遣しております。同平成年以降の臨床研修システムの導入に伴い、山口大学病院泌尿器科の医師数は年々減少しておりますが全員が協力し、山口県の泌尿器科医療を支えています。

当教室では4つのグループに分かれて臨床診療と研究を行っています。松山教授をチーフとする腫瘍診療グループにおいては臨床面では浸潤性膀胱癌の温存治療や蛍光膀胱鏡をもちいた光学的診断治療など尿路性器癌の治療を、研究面では尿路性器癌患者の遺伝子多型が発癌、治療効果、副作用にあたる影響や癌ゲノム変異、中心体複製異常が予後に与える影響を中心に研究しています。土田准教授をチーフとする腎不全診療グループにおいては臨床面では慢性腎不全症例に対する維持透析(血液透析、腹膜透析)の導入と年間10～15例の腎臓移植を行っており、研究面では腹膜透析ラットモデルにおける腹膜硬化抑制、腎虚血再還流ラットモデルにおける腎障害抑制などを行っています。また当チームは山口県における唯一の献腎採取チームでもあり、献腎採取から献腎移植2例を連続して行うこともあります。アンドロロジーおよび小児泌尿器科診療グループは白石晃司助教をチーフとし、アンドロロジーについては精路再建などを積極的に行い無精子症に対するホルモン療法の基礎および臨床的研究を、小児泌尿器科については尿道下裂のre-do症例や精索静脈瘤に対し積極的に治療を行っています。女性泌尿器科診療グループは当院産婦人科学教室の御協力をいただき、女性尿失禁、膀胱癌の外科的治療を行い、膀胱癌治療は150例以上の症例を手がけて参りました。

またこれらの診療グループとは別に腹腔鏡手術チームを立ち上げており、円滑な腹腔鏡手術を行うのみでなく、若手医師の技術修得のためのトレーニングプログラムも実施しております。

山口大学病院における外来診察は初診、再診に加え曜日ごとに専門外来(癌化学療法、腎不全、アンドロロジー、小児泌尿器、女性泌尿器)を設置しており、病院内外を問わず紹介していただきやすいようにしております。また手術については年間約500例を行っており、予定手術は火曜日、木曜日、金曜日に行い、局麻手術はそれ以外の曜日に緊急手術として行っています。

今後の課題としては入局者の確保です。将来的には前期臨床研修のスーパーローテート期間が短縮され現在よりは勧誘が容易になることが予想されますが、問題点をオープンに討議し解決できる雰囲気の良い医局をアピールしつつ山口県の若手泌尿器科医を勧誘、育成していく所存です。山口県地域泌尿器科医療の最後の砦として患者様の治療と泌尿器科学の発展に寄与できる魅力ある教室となるよう努力したいと思っております。

以下に教室で取り組んでいる研究を紹介させていただきます。

#### ■ 研究内容

##### 【基礎研究テーマ】

- 腎盂尿管腫瘍のarray CGH 解析
- 日本人とドイツ人前立腺癌における13番染色体長腕領域allelic imbalanceの相違について
- 膀胱癌のDNAコピー数異常
- KLEIPの発癌機構における役割についての検討
- ラット虚血再還流モデルにおける腎障害抑制の検討
- インフューザーポンプを用いたラット腹膜硬化モデルにおける腹膜硬化抑制の検討
- 精巢内EGF-like growth factorの造精機能への関与
- 実験的精索捻転ラットにおけるhCG/FSHを用いた造精機能の改善
- 酸化ストレスのライディッチ細胞の増殖および分化への影響

##### 【臨床研究テーマ】

- 膀胱癌診断におけるUroVysionの有用性
- 尿路性器癌の発生・進展における遺伝的要因および生活・環境的要因の相互作用について

- 膀胱癌患者の尿検体における中心体複製異常が予後に及ぼす影響について
- 蛍光膀胱鏡検査における偽陽性粘膜の分子生物学的検討
- 前立腺癌の臨床的重要性の予測因子に関する研究
- ドナー腎摘操作および虚血再還流操作による移植腎障害の評価についての検討
- 無精子症に対するhCG/FSHを用いたホルモン療法の確立
- 精索静脈瘤による造精機能障害に対する抗酸化療法の検討
- 射精障害に対するコリン作動性薬剤の有効性の検討
- 血液透析患者における性機能の調査
- 性腺機能低下症患者の性機能に関する客観的評価法の確立と長期至適ホルモン療法の検討
- 小児精索静脈瘤の長期フォローアップと手術適応に関する検討
- 膀胱尿管逆流症の自然消失予測およびbreakthrough infection発症について人工知能を用いた解析